

あまおうじじんじや  
「天皇子神社のケヤキ」

- 指 定 千曲市指定天然記念物 平成 24 年 6 月 6 日指定
- 所 在 地 千曲市大字寂蒔<sup>じやくまく</sup>字八幡新田 1062 番地
- 所 有 者 天皇子神社
- 概 要 ケヤキ 1 本 目通り約 8.7m 樹齡：不明
- 公 開 いつでも可

ケヤキ(ニレ科)は、本州、四国、九州および朝鮮半島、中国、台湾にも分布する落葉樹です。社寺林や屋敷林、街路樹等にもよく植えられてきましたが、自生のものは、低山帯下部の溪谷沿い斜面に多く生息しています。また、雨量が少ない本州内陸部の堆積盆地にケヤキの巨樹、巨木が多く見られます。

和名は「けやけき木」で、特にきわだつ木、顕著な木に由来するといわれます。その材質は、ち密で強靱、くるいが少ないなどの優れた特性を持っています。

そのため古来より、神社、寺院など大建築の建築材や家具材などに加工され、広く使われてきました。木目も美しく、渦巻きのような玉目はとくに珍重されています。

長野県内のケヤキの巨木は、目通りの幹周囲約 8m以上で樹姿がほぼそろっている個体が 10 数本現存し、最も高いもので約 12mあります。この木は地上 5mで主幹を欠いていますが、2 本の大枝を伸ばしています。このように大株が途中で枯損して若枝を伸ばしているケヤキは県内に多数ありますが、目通り 8 mを超える巨樹は少ないとされています。

